

日蓮大聖人御書全集

おんころもならびにひとえごしよ

御衣並単衣御書

新版
1310
ゝ
1311

おんころもならびにひとえごしよ

御衣並単衣御書

けんじがんねん がつ にち さい と き け

建治元年 (75) 9 月 28 日 54 歳 富木家

おんころも ぬの おんひとえ た そうら お

御衣の布ならびに御単衣、給び候い了わんぬ。

せんびやくびく に もう ひと う たま おんころも

鮮白比丘尼と申せし人は、生まれさせ給いて御衣をた

しょうちよう しだい ころも だい

てまつりたりけり。生長するほどに、次第にこの衣、大

のち あま たま ほうえ

になりけり。後に尼とならせ給いければ、法衣となりにつ

ほけきよう ざ きべつ 授 いっさいしゆじよう

り。ついに法華経の座にして記別をさずかる。一切衆生

きけんによらい ほけきよう と ひと にゆうわにんにくえ

喜見如来これなり。また、法華経を説く人は、「柔和忍辱衣」

もう かなら ころも

と申して必ず衣あるべし。

もの種

もう

ひと

植

た

物だねと申すもの、一つなれどもうえぬれば多となり、

りゆう しょうすい

おおあめ

ひと

しょうか

たいか

ころも

竜は小水を多雨となし、人は小火を大火となす。衣

帷

ひと

ほけきよう

進

たま

かたびらは一つなれども、法華經にまいらせさせ給いぬれ

ほけきよう

もんじ

ろくまんきゆうせんさんびやくはちじゅうしじ

いちじ

いちぶつ

ば、法華經の文字は六万九千三百八十四字、一字は一仏な

ほとけ

さいせいはいしゆ

しんぷ

けんぽんおんじゆ

いのち

り。この仏は、再生敗種を心符とし、顚本遠寿をその寿と

じようじゆうぶつしよう

のど

いちじようみようぎよう

がんもく

ほとけ

し、常住仏性を咽喉とし、一乗妙行を眼目とせる仏

おうけ

しんぶつ

もう

さんじゆうにそうはちじつしゆく

なり。「応化は真仏にあらず」と申して、三十二相八十種好

ほとけ

ほけきよう

もんじ

まこと

ほとけ

たま

の仏よりも法華經の文字こそ真の仏にてはわたらせ給

ほとけざいせ

ほとけ

しん

ひと

ほとけ

成

ひと

いて、仏在世に仏を信ぜし人は仏にならざる人もあり、

ほとけ めつご ほけきよう しん ひと ひと じょうぶつ

仏の滅後に法華經を信ずる人は「二りとして成仏せざるこ

によらい きんげん

となけん」、如来の金言なり。

ころも

帷

著 添

ほけきよう

読

この衣をつくりて、かたびらをきそえて法華經をよみて

そちら

にちれん

むかい

びく

ほけきよう

しょうじき

きんげん

候わば、日蓮は無戒の比丘なり、法華經は正直の金言な

どくじや

たま

吐

いらん

せんだん

出

きようきよう

り。毒蛇の珠をはき、伊蘭の梅檀をいだすがごとし。恐々

きんげん

謹言。

くがつにじゅうはちにち

九月二十八日

にちれん

かおう

日蓮

花押

ごへんじ

御返事